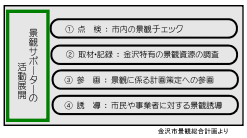
金沢市景観サポーター・景観みまもりたいの活動

景観サポーターとは、金沢市長から任命された、良好な景観形成のために活動する市民ボランティアです。また、景観みまもりたいとは、景観サポーター活動の経験者による組織です。
活動期間は、平成27年度と28年度の2年間。
各自で、またはグループで、金沢の景観資源の調査を行いました。その結果の一部を展示しています。他にも様々な活動をしました。



270603 登録証交付式
270715 長町の景観に関する調査
270724 韓国文化放送取材対応
270727 諸江通り沿道景観協議会勉強会講師
270804 いしかわ景観教室（医王山小学校）補助
270821 ケーブルテレビ（わがまち大好き）出演
270924 広告物除却パトロール
271014 いしかわ広告景観タウンミーティング
271126 おしの女性学級講師
280120 景観勉強会（金沢美術工芸大学鍔教授）
280217 女性センターエンパワーメント21講師
280217 景観勉強会（金沢美術工芸大学角谷教授）

気がついたこと、思ったこと、学んだこと

・金沢の景観は、様々な立場の人によって守られていること
・街並みにあった看板を作るための裏話
・いままで何気なく見ていたもののおもしろさ
・古いものも新しいものもあっての金沢
・昔から景観を大事にしていること
・無電柱化と街並みについて
・まちを歩くことが楽しくなった
・祇び、寂びのはなし
・金沢に対する愛情

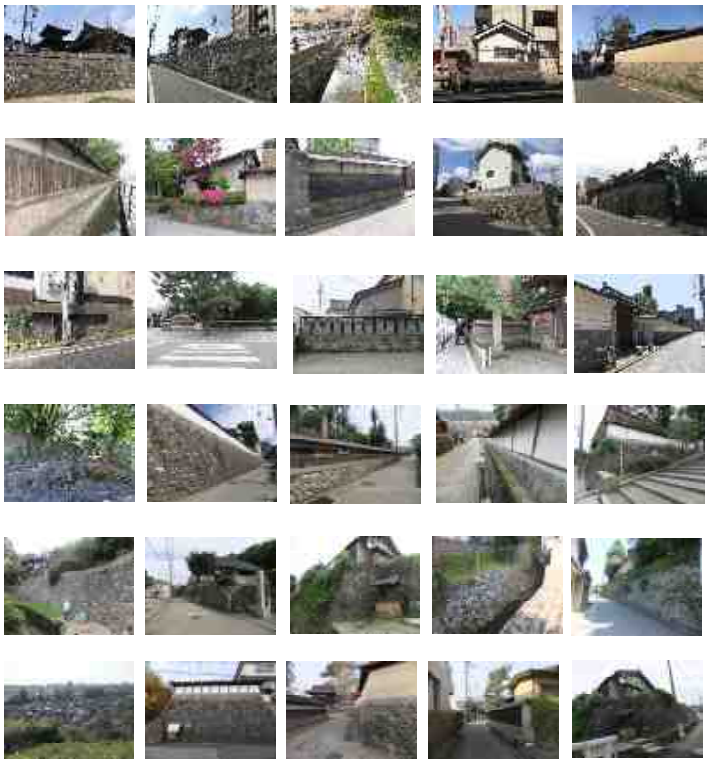
280512 犀川メンズワイズクラブ卓話
280520 諸江通り協議会勉強会講師
280618 まいどさんおもしろ話
280625 ボランティア大学サークル講師
280921 池田大仏堂インタビュー
280923 広告物除却パトロール
281116 押野サロン出前講座
281221 泉野サロン出前講座
290127 「いいね金沢」（MROテレビ）出演
290225 金沢の景観を考える市民会議

まちなかの小さな坂と石段を訪ねて

車優先の利便性を求める現代社会において、住宅地の中にひっそりとある石段と坂は、そこを歩いて通る人や旅人の癒やしの空間であり、金沢の景観の多様性を表している。
利便性を求める無機質な一面を持つ現代において、特徴的な金沢の地形を合理的に行き来するために造られた坂や階段は、金沢らしい景観の演出に一役買っている。

まちなかの石垣のある景観

～藩政期のおもかげを訪ねて古地図と歩く～



金沢には、多種多様な「まちなかの石垣のある景観」がある。

街の記憶

高度経済成長期の建物たち

HP「金沢日和」より

私たちにとって、毎日は一日一日が劇的なドラマ。誰もがそのドラマの主人公。
そして、そのドラマの背景にはこの街がある。
目を閉じると思い出す、あなたの記憶に中にある舞台はどんな街ですか？
毎日の生活の中で、普段は気に留めていない建物。だが、その建物は確かにそこにあった。
記憶の片隅に残る建物。それがその時代を象徴している。その時代の生活を映している。

金沢の街を歩いてみれば、いろいろな時代の建物が隣合わせに建っているのがわかる。
四百年前の先人たちの生活道路が、今もなお、当時のままの道幅で使われている。
その先を行くとバブル期の建物があり、その近くには大正時代の建物がある。
藩政期から現代までその時代の特色がある建物が混在する。
これが金沢の街。どの時代がかけてもいけない。
今回は、高度経済成長期の時代にスポットをあてた。
あっという間に過ぎ去った時代。しかし、日本が一番頑張っていた時代。
この街を行きかう人々はどんな未来を思い描いていたであろう。
人々の記憶に残る風景。この街もまた、それを記憶している。

街のうるおい

街の中の自然

都市と自然が一体となった潤いのある景観は、都市の貴重な財産であり、都市の個性となって都市の魅力を向上させる

金沢の個性や潤を保ち魅力を向上させるため、土地の形状変更や建築物の高さを最小限抑え、構造物の意匠、無電柱化などを適切に行い、自然景観を保全していかなければならない

後世へとつながる景観

今は新しく斬新な建築物も時代と共に

歴史ある建物へと変化していく

私たちは、金沢のほこりある景観美を

守るため後世にのこる景観を選択して

いかなければならない

建築物と景観のかかわりをさぐる調査

から発見できたこと

金沢都市美文化賞から探る

「現代建築物とまちなみ」

樹木を通して感じる
金沢らしい風情ある景観

よく観光客から、『金沢は落ち着く街ですね』と言われます。その要因の一つとして、街中の『樹木の緑』も大きな要素。そこで街中の樹木が景観にどのような効果を与えているかを調査しました。

長町武家屋敷跡のエノキ

ひがし茶屋街の柳

護国神社の五葉松

並木町の松並木

主計町川沿いの樹々

浅野川大橋詰め

多田家の五葉松

金沢らしい景観を支える看板

金沢らしい景観を支える伝統的看板が、街の格をアップしてくれる。その多くは木製の看板である。

木製看板は、長年の風雨にさらされ傷んできており、いずれプラスチックなどの看板に取って代わられるだろう。そこで、伝統的な看板の保存が進み、金沢らしい景観が保全されることを願って、周辺の景観と調和した伝統的な素材・意匠の看板を調査し、カルテを作成した。

看板の修復

アクタス平成１２年３月号より

Before

修復前は、日照・風雨で木が腐っていた。いつまで持つか心配。

After

平成２８年サポーター撮影

修復は、ウレタンで表面を止めてから、加工、コーティング。

（修復した池田大佛堂社長の話）

景観を支える伝統的看板の保存は急務！